

平成29年度事業報告書

テーマ：地域に開かれた法人として関わりを深め、安心のできる暮らしの支援

サブテーマ：地域の中での暮らしを実感して頂き、生き生きと安心した暮らしの提供

部署名：グループホーム みくにの里

<概要> 1. 毎年恒例である小旅行を家族の協力を得、実施した。

定期的なボランティアの訪問や、地域の交通安全運動へ参加でき、地域の人と交流することができた。

みくにの森クリニックや栄養課と連携し、健康管理に努めた。

2. 法人内研修への参加を促した。

気づきノートや申し送りノートを通じて、チーム内の目標や意識の統一を図り、ケアに繋げた。

<総括> 1. 小旅行は、家族の協力のもと一人ひとりの関心や希望、ADLに配慮して行き先を

選定し実施した。丸岡城の花見や月うさぎの里での動物とのふれあい等、家族と共に楽しむことができた。(2日間実施、計4家族14名が参加)

社協のコーヒーボランティアが定期訪問(月1度の間隔で)として体系化され、挽き立ての喫茶風コーヒーを通し交流が深まり、共に簡単な手作業や、地域の近況など聞

くことで入居者の安心に繋がった。入居者が手作りした「交通安全いちごマスコット」を、

坂井西警察署交通課の協力を得て、入居者5名が現地に出向き、加戸小学校1年生

27名と安島幼保園41名の一人ひとりに交通安全を呼びかけながら手渡しすることが

できた。当日、2つの地元紙の取材を受け、写真付きで掲載され、参加した入居者は、

子供達とのふれあいを楽しめた。

またその後も、加戸小学校からお礼訪問でメッセージが届けられたり、安島幼保園の「七夕会」に招待され、より交流が深められた。

みくにの森クリニックへの2週間に1度の定期受診は、事前に入居者の状態や課題を記入し、看護師に提出、また直接報告するなどし、スムーズかつ適切に行えた。

他科受診は家族の意向も踏まえ、主治医の紹介状を持参、専門医療機関に繋げた。

また、退院に向けてのカンファレンスに参加した事で、退院後のケアがスムーズに行えた。栄養面では管理栄養士と連携して、入居者に合わせたの食形態を検討し提供することができた。

2. 各職員の知識、技術に応じた外部研修等への参加は人員不足により不十分であったが、法人内の研修は、研修委員が呼びかけ参加を促すことで参加率が上昇した。チーム内カンファレンスは、朝の申し送りや、気づきノートの書き込みにより、チーム内の意見を理解することができ、それに基づいて統一した目標設定、ケアに繋げることができた。入居者のケアプラン変更時には、ケアマネより発信を受けて、一定期間ホワイトボードに課題を提示し、チーム全職員が情報を把握、意見を集約し、本人が望む自立支援サービスを家族への説明の下で、ケアプランを作成・実施することができた。